



令和元年7月発行

発行：香川医療生活協同組合
高松協同病院

発行者：院長 北原孝夫

編集：高松協同病院 広報委員会

H P: <http://t-kyodo.com/>

第56回JARM 2019

日本リハビリテーション医学会 学術集会

～最先端リハビリテーション医学の今とこれから～

●日時：2019年6月12日(水)～15日(土)

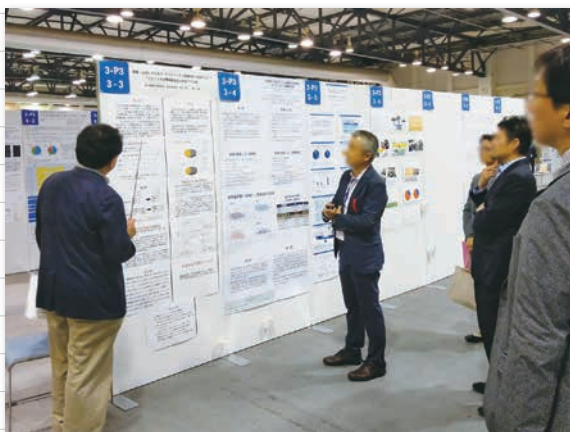
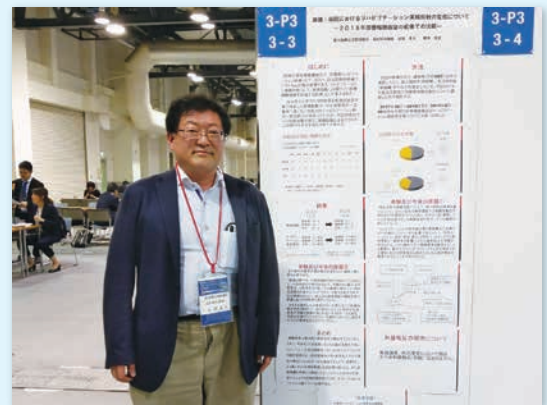
●場所：神戸コンベンションセンター

JARM2019は、2019年6月12日(水)から16日(日)の5日間にわたってポートアイランドにある神戸コンベンションセンターで開催されました。6000名を超える参加者が集まり大盛況でした。並列・連続開催された第13回国際リハビリテーション医学会世界会議(ISPRM2019)は6月9日(日)から13日(木)までの開催となり、日程が重なる12日と13日は両学会の共通プログラムが企画されていました。

JARM2019の開催テーマ『最先端リハビリテーション医学の今とこれから』にもあるように最先端のリハビリテーション医学研究、ロボット・最先端リハビリテーション機器研究、再生医療、ニューロリハビリテーションなど幅広い分野の研究・発表がありました。

当院、北原院長が6月14日にポスター発表で「当院におけるリハビリテーション実績指数の変化について～2018年診療報酬改定の前後での比較～」という演題で発表しました。

入院患者一人一人に対し、リハビリテーションの内容を充実させ、より早く患者様本人やその家族の意向に沿ったゴールに達成することで、結果的に高いFIM利得を実現し在院日数も短くすることの重要性を再認識しました。さらなる質の改善を目指し私たちリハスタッフが入院当初から退院後の生活をイメージし、患者様・家族様の希望に沿った介入を早期から行う意識が重要だと改めて感じました。



リハ栄養

本誌2019年1月号で高松協同病院でのリハ栄養に関する記事を編集集中のことでした。私の叔父(74歳)が小脳梗塞になり、リハビリ目的で転院してくることになったのです。幸いにも小脳梗塞の症状は重くありませんでした。が…入院直後、記事作成の協力をしてもらっていた病棟配属の歯科衛生士さんに「Mさんの叔父さん、西病棟で(入院中の患者様の中で)歯の具合が一番悪いわよ」と言われ、身内に起こっていたのかとビックリ。以下、後方事務の家族体験記をお届けします。

叔父は急性期病院の入院中もそれが原因で栄養が取れず別人の様に痩せて弱々しくなっていました。体力もぐっと落ちて、リハビリを担当してくれている職員からは、「体力つけないとリハビリの効果が十分にあらわれないよ!」と聞きました。元々、歯科に行くことを嫌っていたらしく、ほとんど残存してない汚れた自歯、全く合っていないためあまり使われてない入れ歯など見られた状態ではありませんでした。今回の入院は良いチャンス、家族、実姉(私の母)、私と取り囲んで「治療しまい!」の集中砲火で、しびしびながらも治療を承諾してもらいました。

高松協同病院では入院中、生協へいわ歯科の訪問治療を受けることができます。先生の方から来てくれるし、入院中なので逃げることもできません(笑) 本人も言いたいこともあるでしょうが、今回は大人しく歯科衛生士さんの指示に従い、入れ歯を整備し、まずは「食べられる口」を目指しました。栄養士さんの指示にも従い、とにかくゼリーでも何でも栄養を…から始めました。食事も好き嫌いが激しく、なかなかしづとかった様ですが、看護師、介護福祉士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士の皆さんの食事管理の努力もあり、体重も徐々に戻り、リハビリの効果も上がってきました。入院2ヶ月間で無事退院となりましたが、退院前には入れ歯もでき、食事がしやすくなっただけでなく、歯がきちんと見えるのでより元気に見えるようになりました。生きることの基本である「きちんと食べる」から入り、適度な運動をし、これからも健康であって欲しいと思いました。

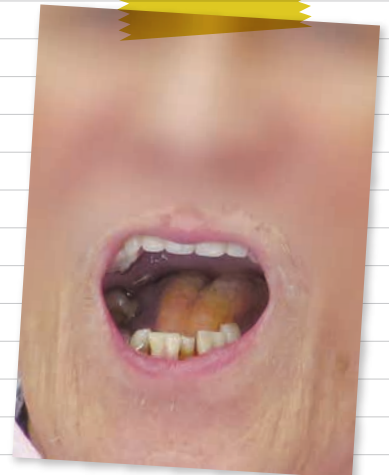
退院時「もう来るんじゃないぞ」と見送り、リハ栄養の重要さを思い知った広報委員の事務Mでした。



ほとんど歯がない(74歳)



治療中(脱走不可)



きれいに歯が並び



表情も明るく笑顔が戻りました



リハビリも順調に進み独歩自立

病棟運動会開催



6月18日(火曜日)東西各病棟で運動会を開催しました。単調になりがちな入院生活のレクリエーションとして、体を動かし精神的にもリフレッシュするリハビリの一環として毎年行っているものです。頑張りすぎて怪我をすることのないよう、スタッフも安全には十分気をつけながらの運動会です。運動会と言えば玉入れ。スタートの合図がある前からフライング気味に投げる患者様も現れ、いかに気合いが入っているかを物語っています。綱引きでは、西病棟の男性の患者様が見方のチームに大きな声で応援のエールを上げ、人数あわせのため助っ人に入ったTナース(仮名)が1人で2人分カウントされるなど、真剣味の中にもユーモアのある大会です。毎年、パン食い競争はなぜか力が入ります。皆さんいつものリハビリより高速に動いて素早くパンをゲット。お玉リレーや借り物競走もこなし、昼からの2時間たっぷり楽しんでいました。途中で水分補給もして健康面にも気をつけながら全行程を無事終えました。準備はいつもの業務をしながらなので結構大変なのですが、患者様の笑顔がある限り、また来年も開催しようとスタッフは思うのでした。

(個人情報の都合で写真のお顔が出せないの、患者様の生き生きとしたところをお見せできないのが残念)



平和行進

今年も恒例の「原水爆禁止国民平和大行進」が5月19日(日)から6月2日(日)までの15日間にわたって県内22のコースで行われ、高松協同病院からも北原院長を筆頭に計25名の職員が参加しました。この取り組みは当院としては業務と位置づけており、平和を創り出す活動=平和でなければ健康で幸せな生活はないという医療者としての意識を育む場として新人職員を中心に毎年参加することに力を入れています。参加した新人職員からも「普段あまり意識することのない平和というものを考えるいい機会になりました」などの感想がありました。



ピースラン

6月22日(土)、「反核・脱原発かがわピースラン2019」が岡山県からの参加者3名を含む総勢19名で行われました。毎年この時期に「核兵器廃絶」と「脱原発」を訴える宣伝カーやのぼり旗、ゼッケンとともに高松市内を駆ける企画です。沿道ではかわいい子供たちが手を振って応援してくれたり、信号待ちのドライバーの方が声援を送ってくださいたりして日差しが降り注ぐ気温28度の中でもしっかりパワーをいただき全員無事にゴールまでたどり着くことができました。また来年も元気で継続していきたいです。



通所リハビリより…

通所リハビリテーション科は、今年の10月から大幅にリニューアルします。これまで、介護予防と1-2時間、6-7時間サービスを展開していましたが、午前・午後の3-4時間サービスに変わります。特に大切にしたいことは、実現可能な生活目標達成に向け、医師も含めた他職種でのマネジメントを通じて支援をしていくことです。

利用者様の困っていること、してみたいことを支援するために、事業所内での活動以外にも、自宅訪問や屋外活動（例：畑作業や公共交通機関の利用等）を通しての支援（評価・指導等）も考えています。

現在は、リニューアルに向けて準備しておりますが、リニューアル前でもご相談やご説明をさせていただきます。ご遠慮なく連絡下さい。どうぞよろしくお願いたします。

連絡先：高松協同病院 通所リハビリ 087-833-2401 (直通)



※新規機器導入予定

病棟より…

4月に病棟勤務の管理栄養士として着任した岡野です。アラフィフになりますが、寝込むことなく3か月やってこられました。これも皆さんのお陰だと感謝しています。ありがとうございます。覚えることが多く、頭の中を整理しながらの日々ですが、とても充実していると感じています。まだまだリハ栄養の勉強が追いついていませんが、患者様1人1人の状況をよく見てリハ効果の向上に貢献できる栄養サポートを小走りで進めていきたいと思っていますので、これからもよろしくお願致します。



訪問リハビリより…

6月より訪問リハビリテーション科の科長になりました、理学療法士の溝淵悠二です。異動前は通所で1年、病棟で10年ぐら勤務していました。生活期での経験は少ないですが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願いたします。

訪問リハビリでは、住み慣れたご自宅等に、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士が訪問させていただき、退院・退所後の自宅での生活に不安がある方、自宅での入浴や料理、外出といった新たな目標に挑戦したい方、介助方法や住環境等についてアドバイスが欲しい方、言葉がはっきりとせず、会話することに難渋している方等の不安や困難な事柄を一緒に解決することで、生活がより豊かで安心なものになるように関わらせていただいています。いつでも相談ください。

連絡先：高松協同病院訪問リハビリ 087-833-2416 (直通)



お知らせ

第15回地域連携懇談会 (急性期)を開催します

とき：8月2日 18時より

場所：高松協同病院 3階会議室

連携相談部 TEL：087-833-2510

2019年度 特定健診のご案内

高松市国保・後期高齢者

の特定健診は **7月～10月**

今年は予約制です。事前にご予約下さい。

ご注意!!保険証と受診券が必要です!!